

## 平成29年度 事業計画書

社会福祉法人 広虫荘

特別養護老人ホーム 広虫荘

(短期入所・デイサービスセンターひろむし)

特別養護老人ホーム 和気広虫荘

(短期入所・訪問介護・グループホームひろむし)

ケアハウス わけ

## 社会福祉法人 広虫荘

広虫荘の定款の目的に「多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。」と記載されています。

社会福祉法人としては当たり前求められていることではありますが、目的に謳われているように利用者を中心とした運営を基本にしていきます。また、今後ますます進む少子高齢化社会に対応できるような多様な福祉サービスを、創意工夫して提供できるように組織全体で取り組みます。

法人の事業がこれからも安定的・組織的に行うことに留まらず、その質的向上と人材の確保、特に、社会福祉法人のあり方等に関する検討会でまとめられた「社会福祉法人制度見直しにおける論点」を踏まえながら取り組んでいきます。また、介護保険制度内外における生活支援、介護予防や地域支援事業への取り組みを強化し、地域包括ケアシステムの構築に向けて法人内部の体制整備等を行い、地域福祉のセーフティネットとしての役割を果たし、地域福祉の向上に努めます。

### 【基本理念】

「笑顔・喜び・支え合い」を念頭に置き、地域福祉の拠点となり、皆様から信頼され選ばれる施設を目指します。

### 【基本方針】

- ① 人としての尊厳を大切にし、利用者一人ひとりの個性を重んじ、笑顔でニーズに沿った個別のサービス提供に努めます。
- ② 真心をもって創意工夫することでその時に満足してもらえる、質の高いサービスの提供に努めます。
- ③ 地域の多様な主体との連携・協働により、地域に密着した運営及び利用者、地域とのコミュニケーションを図るとともに、積極的な情報開示、情報提供等に努め、説明責任を果たします。

### 【運営および事業計画】

#### (1) 理事会・評議員会の開催

##### ①理事会の開催

6月・8月・11月・3月 の 年4回開催予定

##### ②評議員会の開催

6月・12月・3月 の 年3回開催予定

##### ③会計監査の実施

○監事による監査 5月実施

#### (2) 経営会議・運営会議の開催

理事長を中心とした役員級職員による経営者会議を月1回開催し、事業執行上の重大かつ具体的な問題や課題に対処するとともに中期的な経営計画を検討する。事業部門の運営管理は管理職により構成される管理者会議を月1回開催し、迅速な意思決定に基づく合理的・効率的な事業執行を行う。

#### (3) 財務・会計業務

会計基準にもとづく会計処理を行い、予算および入金管理等堅実な会計処理を行うとともに資産の安定的な管理を行う。

#### (4) 人事労務

労働法令等を、遵守しながら労働諸条件および人事労務制度の適切な見直しを行う。労働市場における需給バランスを考慮し必要な人材確保のための手立てを講ずる。

- (5) 職員教育  
職員の資質向上のため教育および研修を充実する。 資格取得支援を行う。
- (6) 施設整備・管理  
修繕計画に基づき建物・設備の中長期的な保全をはかる。既存施設および設備の適切なメンテナンスを行い、故障・修結修繕等についてはすみやかに対応する。利用者、職員が過ごしやすい環境を整備する。
- (7) 防災対策(危機管理)  
災害時の応急備蓄物資の整備を行う。非常災害時の連絡体制や役割分担の整備を行い、緊急時に対応できるよう平時での訓練を行う。
- (8) 合理的な事業展開のため事業所編成を検討する。

## 公益事業

### 喀痰吸引等研修事業（第2号研修）

介護職員等によるたんの吸引等の制度化に向けて、県の指定を受け登録研修機関となり、必要なケアを適切に提供できる介護職員等を養成することを目的として研修事業を実施する。

法人内の介護職員等及び近隣の介護施設等にも積極的に公募を行い、年2回（5月、10月、定員各回10人）の研修を実施し、喀痰吸引等が実施できる職員を養成する。

## 【目標稼働率】

- ・介護保険施設事業（特養・グループホーム） 97% を 目標とする。
- ・軽費老人ホーム（ケアハウス） 95% を 目標とする。

特別養護老人ホーム 広虫荘（広虫荘短期入所生活介護）

特別養護老人ホーム 和気広虫荘（和気広虫荘短期入所生活介護）

### 【事業・運営方針】

1. 個別ケアの充実とサービスの質の向上を図る。
2. 防災計画の充実。
3. 地域との連携を強化する。
4. 次世代を担う職員の人材育成及び確保。
5. 安定した経営を行う。

### 【事業・運営計画】

1. 個別ケアの充実とサービスの質の向上を図る。
  - ・利用者の生きがいのある日常生活を支援する為、個別ケアプランを確実に実施し、提供するサービスについて、継続的な点検を主任介護支援専門員により行い、様々なニーズに適切に対応できる専門性と自己覚知ができる力を持つ。
  - ・ケアサービス向上の為、職員研修の実施（OJT、OFF-JT：各事業所内研修（月1回）、法人内研修（月1回））、また外部研修への参加促進、自己啓発研修の情報提供を行う。
2. 防災計画の充実
  - ・災害の予防を図り、万が一の災害時には被害を最小限に食い止めるため、各種の防災訓練（年2回）や整備点検を行い、常日頃から全職員が「安全管理」に留意して行動する。
  - ・事業継続計画（BCP）作成の検討を行う。
3. 地域との連携を強化する
  - ・地域住民の方々にも参加頂ける施設行事（夏祭り）を開催します。（広虫荘）
  - ・近隣地域のサロン会、「くまカフェ」への参加（年4回）や介護教室の開催、地域住民と情報交換会（年2回）を行う。（広虫荘）
  - ・地域の社会活動への一環として、ケアカフェを、ケアハウス・グループホームと共同で毎月1回開催し継続性のある活動を行う。（和気広虫荘）
  - ・ボランティア・実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供する。（教員養成介護実習、小中学生夏ボラ、市社協出前講座など）
4. 次世代を担う職員の人材育成及び確保
  - ・職員のキャリア・アップを推進・支援していく役割を担うアセッサー講習に、1名の参加を行い、人材の育成に努める。
  - ・内・外部における研修（接遇・実践者研修・リスクマネジメント研修等）に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等養い、専門的知識・技術を向上させていきます。
  - ・就職面接会等への介護職員等の参加を行い、自ら次世代の職員を獲得する意欲を育てる。（年2回以上）
5. 安定した経営を行う
  - ・健康管理・事故予防を徹底し、入院者数（延べ）を1,000人以内にする。
  - ・利用申込者の状態把握を毎年行い、空床発生から10日間を目安に新規受け入れを行う。
  - ・コスト意識を高め、経費節減に努める。前年度経費支出の1%を節減目標とする。

## 【目標稼働率】

### 特別養護老人ホーム広虫荘

	特養	短期入所
利用者定員	110名	4名
利用者延数	40,150名	
1日平均利用者数	110名	
稼働率	97%	
稼働日数(延べ)	365日	
単価(一日一人当たり)	10,126円	7,598円
総収入(千円)	395,487千円	8,320千円
職員数	68名(パート12名)	

### 特別養護老人ホーム和気広虫荘

	特養	短期入所
利用者定員	100名	空床利用
利用者延数	35,405名	
一日平均利用者数	97名	
稼働率	97%	
稼働日数(延べ)	356日	
単価(一日一人当たり)	10,661円/日	
総収入(千円)	377,452千円	
職員数	65名(派遣2名・パート7名)	

## 【備品購入】

### 特別養護老人ホーム広虫荘

- ①介護機器の更新
  - ・ベッド 5台の更新
  - ・マットレス 10枚
- ②調理用器具の更新
  - ・温冷配膳車購入計画(H.28～31年の4ヶ年での実施)

### 特別養護老人ホーム和気広虫荘

- ①介護用品・機器の購入
  - ・エアーマット 3台の購入
  - ・車椅子 5台の更新
- ②医療器具の更新
  - ・オートクレーブ
- ③調理用器具の更新
  - ・温冷配膳車購入計画(H.29～31年の3ヶ年での実施)
- ④車両入れ替え
  - ・車いす対応(軽自動車)車両 1台の購入。  
(日本財団へ福祉車両助成の申請を行う。)

## 【施設整備】

### 特別養護老人ホーム和気広虫荘

- ①洗面所2カ所リフォーム

## グループホームひろむし

### 【事業・運営方針】

利用者の尊厳を重視し、「明るく温かく愛を持って」を目標に、家庭的な雰囲気の中で、日常生活を営むことができるよう援助し、家族・地域の協力を得ながら自立に向けた質の高いサービスの提供に努めていく。

1. 個別ケアの充実とサービスの質の向上を図る。
2. 家族との連携
3. 地域との連携を強化する
4. 職員の育成
5. 安定した経営を行う

### 【事業・運営計画】

1. 個別ケアの充実とサービスの質の向上を図る。
  - ・利用者の生きがいのある日常生活を支援する為、個別ケアプランを確実に実施し、提供するサービスについて、継続的な点検を主任介護支援専門員により行い、様々なニーズに適切に対応できる専門性と自己覚知ができる力を持つ。
  - ・ケアサービス向上の為、職員研修の実施(OJT、OFF-JT:各事業所内研修(月1回)、法人内研修(月1回))、また外部研修への参加促進、自己啓発研修の情報提供を行う。
2. 家族との連携
  - ・行事等(敬老会・和文字焼)に対しご家族への呼びかけを行い交流の機会を持つ。
  - ・年2回の家族会を継続して開催する。
3. 地域との連携を強化する
  - ・運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、地域への情報の開示および情報交換を行う。
  - ・地域密着サービス連絡協議会への参加。
  - ・地域の社会活動への一環として、ケアカフェを、特養・ケアハウスと共同で、毎月1回開催し継続性のある活動を行う。
4. 職員の育成
  - ・認知症ケアに関する施設内研修の実施及び外部研修(実践者研修)へ1名の参加を行い、職員の育成に努める。
  - ・職場内研修の参加・職場外研修(接遇・実践者研修・リスクマネジメント研修等)に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等養い、専門的知識・技術を向上させていきます。
5. 安定した経営を行う
  - ・健康管理・事故予防を徹底し、異常の早期発見、早期治療により入院者を減らす。
  - ・新規入所の速やかな受け入れにより空床期間を低減する。
  - ・地域ケアマネージャーとの情報を密にし、待機者を増やす。

### 【目標稼働率】

	グループホーム
利用者定員	18名(2ユニット)
利用者延数	6,350名
一日平均利用者数	17.4名
稼働率	97%

稼働日数(延べ)	365日
単価(一日一人当たり)	11,740円/日
総収入	74,542千円
職員数	14名(パート1名)

## ケアハウスわけ

### 【運営方針】

入居者の特性に配慮した住みよい住居を提供し、自立性を尊重しつつ、安全で安心して心豊かに自立した生活ができるよう食事の提供、入浴の準備、相談機能の充実、緊急時の対応等とともに身体機能低下や認知症が進行している方が増えてきている為、介護サービスを利用しながら生活を維持できるように努めていく。

### 【事業・運営方針】

1. 利用者が安心して安全な生活を送れるサービス
2. 地域との連携を強化する
3. 安定した経営を行う

### 【事業・運営計画】

1. 利用者が安心して安全な生活を送れるサービス
  - ・利用者の日常生活を支援し、1日でも長く安心して生きがいのある生活ができる居場所を提供する。
  - ・施設全体の防災(災害)を徹底する。職員のいない夜間帯の地震、火災発生時の初動訓練には引き続き重点的に取り組む。
2. 地域との連携を強化する
  - ・地域の社会活動への一環として、ケアカフェを、特養・グループホームと共同で、毎月1回開催し継続性のある活動を行う。
  - ・ボランティア・実習生など、積極的に受け入れる。
3. 安定した経営を行う
  - ・新規入所の速やかな受け入れにより空床期間を低減する。
  - ・コスト意識を高め、経費節減に努める。
  - ・地域ケアマネージャー等との情報を密にし、待機者を増やす。

### 【目標稼働率】

	ケアハウス
利用者定員	30名
利用者延数	10,402名
一日平均利用者数	28.5名
稼働率	95%
稼働日数(延べ)	365日
単価(一日一人当たり)	4,407円/日
総収入	44,876千円
職員数	5名(パート1名)

## デイサービスセンターひろむし

### 【事業・運営方針】

昨年度の通所介護事業の編成変更により、広域型サービスとしての有効性を継続するため、定員19名とし事業規模の拡大を行ない、看護職員の常勤配置も行なった。今年度は、更に広域型としてのメリットと医療ケアの充実をPRして、在宅生活を安心して継続できるサービス機関として地域に根ざしたい。

### 【経営方針】

1. 安定した経営基盤を構築する。
2. 他の介護保険事業所だけでなく医療機関、行政機関や地域住民との連携を強化し、地域の中で信頼のある拠点としての事業所を目指す。

### 【事業・運営方針】

1. ご利用者が、尊厳を保持し、その能力に応じた自立した日常生活を在宅にて継続できるよう支援する。
2. ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を図る。
3. 職員は、日々専門技術の向上を目指し、連携を密に図り、チームワークを強化する。
4. 運営の効率化を図り、活気ある環境作りを進めていく。
5. 重度化への対応。
6. 機能訓練の強化。

### 【事業・運営計画】

1. ご利用者が、尊厳を保持し、その能力に応じた自立した日常生活を在宅にて継続できるよう支援する。
  - ・居宅サービス計画に基づき個別援助計画を立て職員間で周知を行う。
2. ご利用者、ご家族との信頼関係の構築
  - ・利用者様への援助はもちろんのこと、ご家族に対してもコミュニケーションの強化を図る。
  - ・個人の連絡帳はもちろんのこと、送迎時にも事業所の様子や自宅での様子について情報交換をする。
3. 職員は、日々専門技術の向上を目指し、連携を密に図り、チームワークを強化する。
  - ・内・外部における研修(接遇・実践者研修・リスクマネジメント研修等)に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等養い、専門的知識・技術の向上を目指す。
4. 運営の効率化を図り、活気ある環境作りを進めていく。
  - ・利用者・家族のニーズを考慮しつつ、送迎の効率化を図り、送迎時間の多様化を行う。
5. 重度化への対応
  - ・看護職員の常時配置を行い、多様化する医療ニーズに対応する。例えば、胃ろう、インスリン自己注射、導尿などの医療行為にも対応できるデイサービスを目指す。
6. 機能訓練サービスの強化
  - ・併設している特別養護老人ホームのリハビリ職と連携をもち、機能訓練プログラムの計画及び評価を行う。
  - ・「楽しみながら行う機能訓練」を目標に、レクリエーション的要素を取り入れた機能訓練を実施することで、利用者に継続性と積極性を持ち取り組んでもらう。
  - ・事業所での状態だけでなく自宅での環境も考慮した場面設定を行い、訓練評価を行う。

### 【目標値】

平均開館日数 26.5日  
平均 10人/日

### 【備品購入】

- ①車両更新(リース満了)
  - ・普通自動車(福祉車輛) 1台の更新。



## ヘルパーステーションわけひろむし

### 【運営方針】

利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・排泄・食事の介護その他生活全般にわたる援助を行う。

- ①ご利用者の尊厳を重んじ、その人らしい自立した生活を支援する。
- ②目配り、気配り、思いやりと、傾聴の心を持つ。

### 【事業・運営計画】

#### 1. 自立した日常生活の支援

- ・ 介護給付:利用者の要介護状態の軽減を図るとともに、悪化防止に努める。
- ・ 予防給付:利用者の生活機能の維持をするとともに、向上するための支援をする。

#### 2.利用者処遇

利用者へのよりよいサービスの提供に繋げるために、ご利用者の生活暦、ニーズを理解したうえで、居宅介護支援事業者等と連携をとり、適切な訪問介護サービスを提供していく。

#### 3. 関係機関との連携

担当者会議での関係機関との情報交換等を行い、連携を強化して課題解決を図る。

#### 4. 職員の育成

- ・実践者研修・リスクマネジメント研修等に参加し、社会福祉に関する知識や技術・一般常識等養い、専門的知識・技術を向上させていきます。

#### 5. 安定した経営を行う

ケアマネージャー、各専門職種と連携を常にとるようにし、信頼関係を持つことにより、新規利用者の確保につなげる。

### 【目標稼働率】

	ヘルパーステーション
利用者	30名
稼働日数(延べ)	361日
単価(一日一人当たり)	46,590円/日
総収入	16,820千円
職員数	7名(登録ヘルパー3名)